

小浜地域審議会

提言書

平成21年8月19日

はじめに

雲仙市が誕生して、4年が過ぎようとしておりますが、雲仙市総合計画に掲げられております市の将来像と施策に基づき、雲仙市のまちづくりが着実に進められておりますことに、心から敬意を表します。

さて、私たち小浜地域審議会委員15人は、平成19年7月に市長から委嘱を受け、第2期小浜地域審議会として活動を開始しました。市の総合計画や地域振興計画、委員としての所管事務等について研修し、その責任を深く認識する中で、「地域審議会の設置に関する事項」第3条第2項の「審議会は、必要と認める事項について審議し、市長に意見を述べることができる。」を根拠として、小浜地域の発展が雲仙市全域の発展に寄与することを目指して、地域の課題を探り、提言書としてまとめ、市長に提言することを決定しました。

以来、定例会議を7回と臨時会議を3回開催し、様々な地域課題の一つひとつを市民の目線でしっかりと見つめ、現状と課題やその解決策について審議を重ね、このほど提言書としてまとめることができました。

本来、審議会としての提言は、中長期的な視点に立ってまとめるべきであると考えますが、現状を少しでも早く改善する必要がある事業、また、新規に実施していただきたい事業等があり、ここに本審議会として提言いたします。

平成21年8月19日

雲仙市長 奥村 慎太郎 様

小浜地域審議会会長 津山信一郎

目 次

ページ

1．産業振興について

(1) 観光業振興について

() 観光振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

() 交通アクセスの改善・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

(2) 農業振興について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

(3) 漁業振興について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

(4) 商工業振興について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2．参加・協力が可能な「まちづくり」について

(1) 環境をテーマにした地域づくり、まちおこしについて

() 環境にやさしい取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

() 市民提案事業の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

(2) 文化の振興について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

(3) 明日を担う人づくりと誇りあるふるさとづくりについて・・・・・・ 4

3．合併後の市政について、全市にかかわる提言

(1) 道路環境の整備について

() 小浜地区における国道57号の迂回路の整備・・・・・・・・・・・・・・ 5

() 雲仙地区における国道57号の迂回路の整備・・・・・・・・・・・・・・ 5

(2) 住宅環境の整備について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

(3) 公共施設等の環境整備について

() 小浜体育館の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

() 総合支所の有効活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

() グラウンドゴルフ場の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

() 市営浜の湯の再整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

小浜地域審議会提言書

1. 産業振興について

(1) 観光業振興について

() 観光振興

現状と課題

本地域には、日本を代表する観光地「雲仙温泉」や「小浜温泉」があるが、平成2年の雲仙普賢岳噴火以来、団体旅行から家族・小グループ旅行への旅行形態の変化、観光ニーズの多様化と相まって、宿泊を伴う観光客は年々減少し、観光関連産業に深刻な打撃を与えている。

解決策

本地域の観光振興策として、市として次の事業を行い、支援する。

日帰り観光客数は増加傾向にあり、今後は、市内各地域に点在する観光資源を活用した観光ルートを設定するなど、連携強化に努める。

平成21年4月から無料化になった雲仙仁田峠循環道路を旅行会社にPRすると共に、旅行プランとしての企画を依頼し、観光客の誘客に努める。

観光客が安心して雲仙・小浜温泉を訪れるように案内板を増設すると共に、温泉街の駐車場を十分確保する。

環境都市「雲仙」を積極的にアピールする。

新たな観光客の誘客対策として、「島原半島ジオパーク」の世界ジオパーク認定を目指して、強力的に推進する。

雲仙温泉地域では、コンベンションができるホテルや旅館等の施設、設備が整っていることをアピールする。

小浜温泉地域では、スポーツ合宿やコンベンションができる施設整備を推進し、行政や民間企業等の各種コンベンションを誘致する。

() 交通アクセスの改善

現状と課題

長崎空港やJR諫早駅から「雲仙温泉」や「小浜温泉」を訪れるには、列車やバス等の各公共交通機関を何回も乗り継ぐ必要があり、その乗り継ぐための待ち時間が長く連絡が不便であり、交通アクセスの改善こそが喫緊の課題の一つである。

解決策

本地域の交通アクセス改善策として、各公共交通機関に対し、利用者ニーズに対応した運行を実施するよう促す。

(2) 農業振興について

現状と課題

本地域では、観光産業と共に農業が基幹産業の一つであるが、農産物の自由化等によりバレイショ・イチゴ等の主要農作物の価格低迷や、肥料・資材等の価格高騰、それに伴うコスト増や収益低下等が要因となって、農業後継者や農業従事者、専業農家の減少、また、離農者や耕作放棄地の増加等に拍車をかけている。しかも、農作物へのイノシシ被害が急増し営農意欲を削いでいることから、これらの課題を早急に解決する必要がある。

解決策

本地域の離農対策や専業農家の減少対策、耕作放棄地解消対策、イノシシ対策として、市として次の事業を行い、支援する。

農家が活用しやすい補助制度説明会を全農家を対象に開催すると共に親切丁寧な説明を行い、補助金申請から交付までの事務処理期間を短縮する。

耕作放棄地解消対策として、耕作放棄地を放牧地として活用する新規の補助事業制度を創設する。

交流人口増対策として、都会の人に耕作放棄地を貸し出し、耕作から苗の植え付け、農作物の収穫体験等農作業を体験してもらい、体験型農業を推進する。

行政と民間の協働による農林水産商工観光業等の異業種間交流を企画し、観光客や地域住民を対象にした軽トラ朝市を拡充し、直売所を開設すると共に、地産地消を推進する。

農作物へのイノシシ被害をこれ以上拡大させないように、全市的なイノシシの一斉駆除を行う。

(3) 漁業振興について

現状と課題

本地域の漁業は、橘湾沿岸の磯やけや乱獲、赤潮被害等による漁獲量や収益の落ち込み、また、漁業従事者の高齢化や後継者不足等により、廃業や他産業へのシフトを余儀なくされ、危機的状況にある。

解決策

本地域の漁業の活性化策として、市として次の事業を行い、支援する。

漁獲高を確保し、漁業従事者の収益を安定させるための養殖漁業や栽培漁業の振興

本地域で水揚げされた水産物の地産地消の推進

赤潮被害に対する漁業者支援策を講じる。

(4) 商工業振興について

現状と課題

本地域の商工業は、ホテルや旅館等が閉鎖する中、地域住民の購買力の低下や市内外の大型商業施設への顧客流失により商店街は空き店舗が増加し、廃業や閉店を余儀なくされている。

解決策

観光地である本地域の商工業は、観光産業が潤うことで活性化されることから、観光客が訪れたいくなるような魅力的なまちづくり、地域づくりを目指して、行政と民間の協働によるまちおこし事業を実施する。

2. 参加・協力が可能な「まちづくり」について

(1) 環境をテーマにした地域づくり、まちおこしについて

() 環境にやさしい取り組み

現状と課題

本地域の住民は、雲仙・天草国立公園内に居住することから、地球温暖化防止のための環境に優しい取り組みを行う必要があるのではないかと心配される。

解決策

環境にやさしい取り組みを行うために、市として次の事業を行い、支援する。
環境汚染につながるマイカー利用の自粛を目的に「環境に優しい取り組みの日」を定める。
市民一斉ノーマイカーデーに併せて、地域住民のノーマイカーデー運動の一斉取り組みを行い、健康維持のためのウォーキングを促す。
買物の際にはマイバックを持参し、ビニール袋の提供を求めるときは、精算時に別料金を支払う。
スーパー等でビニール袋の有料化により得た収入は、市に寄附する。
市は寄附金を有効活用するために、道路傍や空地への木や花などの植栽費用に充てる。
地域住民の環境意識の向上を目指して、雲仙Eキャンレッジ交流センター（本市小浜バスターミナル2階）主催の環境教育講座の周知を図り、市民、企業、大学関係者等の積極的な参画と施設の開放を促す。

() 市民提案事業の推進

現状と課題

本地域には、観光客等の憩いの場である「とけん山」の桜の木々が寿命や病気で枯れかけていることからボランティアを募り、手入れや植栽等を行おうとする「とけん山桜並木復活事業」や、「雲仙」登山道沿線に広葉樹等の自然林を植栽しようとする「雲仙市民100年の森計画」の2つの事業がある。これらの事業は、平成21年度市民提案事業として採択され市から支援を受けることとなったが、地域住民や観光客等のボランティアへの依存度が高いことから成果が上がらないのではないかと心配される。

解決策

本地域の観光資源である「とけん山」や「雲仙」の環境美化、環境保全等を目的とした「とけん山桜並木復活事業」及び「雲仙市民100年の森計画」の2つの事業は、平成21年度市民提案事業として採択されている。これらの観光資源は、本地域の子孫へ残すべき環境遺産であると同時に、各事業の成就を期す必要があることから、市として、地域住民や観光客等に対し周知徹底を図り、ボランティアとして活動に参加していただくよう推進する。

(2) 文化の振興について

現状と課題

本地域の偉大な先人や先達の文化的偉業発掘と継承、文化教育行政への反映、情報発信が課題である。

解決策

本地域には、ゆかりのある偉大な先人や先達が多くおられるが、その文化的偉業を発掘、継承すると共に、併せて、現代の糧として文化教育行政に反映させ、また、これらの情報を発信し、観光客の誘客に繋げることを目的に、市として次の事業を行い、支援する。

児童文学や心理学の博士である関三兄弟の功績偉業を発掘すると共に、歴史資料館の中に紹介コーナーを設けるなど整備充実に努める。

(東北の民俗学者、柳田国雄記念館との交流を図る。)

関三兄弟の母校である東洋大学や筑波大学、活水学院との連携

国学者吉田松陰や作家夏目漱石、ノーベル文学賞作家パール・S・バック、歌人斉藤茂吉、俳人種田山頭火、ヘレン・ケラー女史など本市を訪れた有名、著名人と雲仙・小浜との関わりを広く紹介し、本地域の活性化に繋げる。

(3) 明日を担う人づくりと誇りあるふるさとづくりについて

現状と課題

本地域では、少子化や若者の地域離れが急激に進み、知的魅力や活力の低下が懸念されることから、本地域の活性化策として人材育成が急務である。

解決策

本地域の活性化策として、海・山・環境を大切にすると人材育成を進める必要があることから、市として次の事業を行い、支援する。

本地域の観光振興を目指して観光人材育成の拠点強化を図り、観光マイスターの育成を行う。

国立公園を有する本地域の環境意識の高揚を目指して、長崎大学環境科学部、長崎県環境部及び雲仙市の3者が締結した、相互連携協力に関する協定書に基づき、本地域における環境教育及び環境施策の研究・充実に努めることを目的に、雲仙Eキャンレッジプログラムを推進する。

- ・本地域の環境の特性に適合した持続可能な地域づくり(エコビレッジづくり)の実践
- ・大学と市民が一体となった環境教育研究活動(大学生と社会人を対象とした環境教育開放講座の開催等エコキャンパスづくり)の実践

3. 合併後の市政について、全市にかかわる提言

(1) 道路環境の整備について

() 小浜地区における国道57号の迂回路の整備

現状と課題

国道57号は、観光、生活両面を併せ持った重要な道路であるため、一箇所でも崖崩れが発生すると愛野、小浜両方面は分断される。また、小浜温泉街で花火大会やマラソン大会、産業祭等大きな観光イベントが開催される度に、国道57号は大渋滞を余儀なくされるので、小浜～愛野間の迂回路を早急に整備する必要がある。

解決策

国道57号小浜～愛野間の迂回路として、グリーンロードに繋がる小浜～愛野バイパスを早急に整備するために、市として次の事業を行い、支援する。

国道57号小浜～愛野間の生活、観光両面の利用調査の実施
農道として整備できないか等、実現可能な整備方法の調査の実施

() 雲仙地区における国道57号の迂回路の整備

現状と課題

雲仙温泉街を縦断する国道57号は、小浜方面から島原、千々石両方面へ抜ける唯一の観光道路である。また、雲仙温泉街のライフラインは、国道57号沿いに整備され、国道57号は、ホテルや旅館、地域住民にとっても大切な道路であると同時に、交通事故や火災等の緊急時、支障をきたす恐れがあることから、迂回路の整備が緊急課題である。

解決策

雲仙温泉街を縦断する国道57号の迂回路として、有明ホテル前～やまびこ会館～市営住宅～旧グランドホテル跡～ホテル東洋館前までの道路を整備する。

(2) 住宅環境の整備について

現状と課題

本地域は、少子高齢化が著しく、過疎化が急激に進み限界集落に転落するのではないかと危惧されている。観光関連産業という雇用の場を抱えながら家族と共に暮らす観光関連産業従事者は、住環境の悪化等の理由から地域外へ転出している状況である。観光関連産業を下支えする人たちの本地域からの流失は、地域内消費力や地域力、そして観光地としての魅力を今後益々低下させ、観光産業そのものの低下に繋がるのではと懸念されている。

解決策

「エコ・タウンと人材育成」をコンセプトに、観光関連産業の活性化を目指し、住宅環境の整備を早急に進めることを目的に、市として次の事業を実施し、支援する。

市営住宅の改修

UIターン者や若年の子育て世代層、アーティストの住居等を目的に、廃屋となった民間宿泊施設や民間企業の社員寮を再利用する。

一般県道雲仙千々石線の拡幅工事を早急に進め、長崎市や大村市までを通勤圏内とすることで、本地域居住者の流失を防ぐ。

(3) 公共施設等の環境整備について

() 小浜体育館の整備

現状と課題

本地域の小浜体育館は、トイレ等も狭く老朽化が激しい。昨年は天井内壁が広範囲に落下したことから緊急的に改修工事を行い、現在は安全を確認し利用に供しているところである。しかし、現体育館では、全国規模のコンベンション等の誘致はできないことから、本地域の活性化のためにも新設整備すべきだ。

解決策

本地域の活性化策として小浜体育館の整備を進めるために、市として次の事業を行い、支援する。

小浜体育館の新設整備のための工事費を試算すると共に、整備財源の確保調査を行う。

現況での利用状況や地域への経済波及効果、現利用者への満足度調査、誘致可能なコンベンション調査等を行い、企画書を作成する。

宿泊施設が充実している本地域に全国規模のコンベンション等を誘致するための多機能的な小浜体育館等の施設を新設整備し、観光客の誘客に繋げる。

() 総合支所の有効活用

現状と課題

本地域の子どもたちやお年寄り等のほとんどが小浜文化館の図書室を利用しているが、立地条件が悪く、しかも大変狭い上に司書も常駐しておらず、蔵書数も少なく古びているものが多い。また、市立図書館は国見地域にあることから、本地域の住民が利用するには大変遠くて不便である。市教委が実施している移動図書館による図書の配架サービス事業は大変便利に感じるが、それだけでは充分とはいえない。

解決策

本地域の図書館事業の活性化のために、市として次の事業を行い、支援する。

総合支所に支所機能と併せて、図書館を併設する。

図書館には司書を置き、書架や蔵書、資料等の整備充実を図る。

温泉で有名な本地域の特質を活かすために、長期滞在に併せて児童書や温泉に関する本を充実させる。

() グラウンドゴルフ場の整備

現状と課題

本地域では、旅館をグラウンドゴルフと温泉をセットにした旅行プランで利用される観光客が増加しているが、このことにより、本地域のグラウンドゴルフ愛好者は、グラウンドゴルフを楽しむことができなくなっている。これは、身近にグラウンドゴルフのできる施設がマリパークしかなく、本地域が観光地であることから旅館利用客等のマリパーク利用が優先されるからである。

本地域のグラウンドゴルフ愛好者が、いつでも自由にグラウンドゴルフを楽しむことができるグラウンド整備が課題である。

解決策

本地域のグラウンドゴルフ普及のために、市として次の事業を行い、支援する。

誰もがいつでも自由にグラウンドゴルフを楽しむことができるように、マリナーの中に2面整備を行い、開放する。

グラウンドゴルフは、市民の健康づくりのために最適なスポーツであると考えられることから、高騰する医療費抑制にも繋がることが予測され、ぜひ、子どもから高齢者等の幅広い年代層にグラウンドゴルフを普及させ、誰もがいつでも楽しむことができるように、グラウンドゴルフ場を整備する。

() 市営浜の湯の再整備

現状と課題

本地域の市営浜の湯は、本地域外の方々からも「浜の湯は、自分たちの銭湯だ」と認識され、利用客が増加傾向にあり、現在、一日平均400人以上の方々から利用されている。また、温泉旅館の外湯として利用される観光客が増加し、浜の湯の施設の狭さと衛生上の問題から、安心安全についての不安の声が聞こえる。

解決策

本地域の市営浜の湯の利用客に安心安全に利用していただくために、市として次の事業を行い、支援する。

「市営浜の湯」等の看板の設置やタイルの張り替え、貯湯槽の拡張工事等の施設整備を行う。

一定量のかかり湯を確保するため、カランの交換等の施設整備を行う。既存施設では、利用客の満足度が低いので、新設整備する。